

令和元年度小・中学校各教科等担当指導主事連絡協議会 報告書

教科・領域	特別活動		愛知県教育委員会
月日・曜	小：6月19日（水） 中：6月20日（木）	会場名	国立オリンピック記念青少年総合センター
<小学校> <中学校>		文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官	安部 恭子 長田 徹
1 小学校特別活動の「評価の観点」と「内容のまとめりごとの評価基準」作成について			
特別活動では、学習指導要領の目標及び各学校の実態を踏まえて、「各学校で評価の観点を定める」としている。「内容のまとめりごとの評価基準」は、学習指導要領の「特別活動の目標」と改善等通知を踏まえ、特別活動の特質に応じた形で作成する。			
(1) 学習指導要領の「特別活動の目標」と改善等通知を確認する（手順1）			
【特別活動の目標】			
集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。			
(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。			
(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。			
(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己（人間として）の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。			
【初等中等教育局長通知（H31.3.29）（改善等通知）】			
（前略）評価の観点については、小学校（中学校）学習指導要領等に示す特別活動の目標を踏まえ、各学校において別紙4を参考に定める。その際、特別活動の資質や学校として重点化した内容を踏まえ、例えば「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」などのように、より具体的に定めることも考えられる。（後略）			
(2) 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、改善等通知の例示を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を設定する（手順2）			
各学校においては、学習指導要領に示された特別活動の目標及び内容を踏まえ、自校の実態に即し、改善等通知の例示を参考に評価の観点を作成する。その際、次に示すように、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえて、具体的な評価の観点を設定することが考えられる。			
【特別活動における「評価の観点」及びその趣旨をもとにした例】			
よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度	
多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。 よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。	

【特別活動における資質・能力の視点（人間関係形成・社会参画・自己実現）をもとに重点化を図った例】

集団や社会に参画するための知識・技能	協働してよりよい生活や人間関係を築くための思考・判断・表現	主体的に目標を立てて共によりよく生きようとする態度
多様な他者と協働し、集団の中で役割を果たすことの意義や、学級・学校生活を向上する上で必要となることを理解している。 よりよい生活づくりのための話し合いの手順や合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	多様な他者と協働して、よりよい生活や人間関係を築くために、集団や個の生活上の課題について話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。	学級や学校の一員としてのこれまでの自分を振り返り、なりたい自分に向けて目標をもって努力し、他者と協働してよりよく生きていこうとしている。

【社会参画に重点化を図った例】

多様な他者と協働するために必要な知識・技能	集団や社会をよりよくするための思考・判断・表現	主体的に集団活動や生活をよりよくしようとする態度
学級や学校、社会生活の充実のために主体的に参画することの意義や、そのための話し合いの手順を理解している。 話し合い活動における合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	学級や学校、社会生活の充実・向上のために課題を考え、話し合い、集団としての解決方法を合意形成したり、自分の実践目標を意思決定したりしている。	学級や学校、社会生活の改善・充実を図るために、相互のよさを生かし、協働して実践しようとしている。 現在及び将来の自己実現に向けて、これまでの自分を振り返り、これからの集団活動や生活に生かそうとしている。

- (3) 学習指導要領の「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説で例示した「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。（手順3）

学習指導要領解説では、各活動・学校行事の内容ごとに育成を目指す資質・能力が例示されている。そこで、学習指導要領で示された「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説で例示された「資質・能力」を確認し、各学校の実態に合わせて育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。

- (4) 観点ごとのポイントを踏まえ、「内容のまとめりごとの評価基準」を作成する。（手順4）

特別活動の目標や各活動・学校行事の目標、各学校で設定した各活動・学校行事において育成を目指す資質・能力を踏まえて、「内容のまとめりごとの評価基準」を作成する。その際、学級活動においては、学習指導要領解説に示した、発達の段階に即した指導のめやすや、各学年段階における配慮事項を踏まえて評価基準を作成することが考えられる。

なお、学級活動の内容のまとめりは、学級活動（1）（2）（3）である。次に学級活動（1）を例に、内容のまとめりごとの評価基準を示す。

【学級活動「（1）学級や学校における生活づくりへの参画」の評価基準例】

〔小学校 第1学年及び第2学年の例〕

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
みんなで学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	学級生活を楽しくするために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲よく助け合って実践している。	学級生活を楽しくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。

〔中学校の例〕

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。 合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだすことができる。 課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている。

2 特別活動改善の方向性

- (1) 「合意形成」、「意思決定」を含む学習過程を重視
- (2) 特別活動の視点を「人間関係形成・社会参画・自己実現」に整理、視点を手掛かりに資質・能力を設定
- (3) 学校教育全体、小学校から高等学校を通じて行う「キャリア教育」の要と明示

(1) 特別活動の学習過程「合意形成」と「意思決定」について

① 明記された「合意形成」と「意思決定」

物事を決めることができない子供たちが多いと言われる。それは、子供たちは、意思決定ができないのではなく、教師が意思決定をさせてこなかったためである。今回の学習指導要領解説では、「意思決定」と「合意形成」を学習過程として明記している。

○ 学級活動

- | | |
|-----------------------------|--------|
| (1) 学級や学校における生活づくりへの参画 | ⇒ 合意形成 |
| (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 | ⇒ 意思決定 |
| (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 | ⇒ 意思決定 |

○ 生徒会活動

⇒ 合意形成

○ 学校行事

⇒ 合意形成と意思決定

学級活動(1)は話し合い活動で具体化された解決方法について合意形成を図ることを、(2)(3)では話し合い活動で共有化された解決と方向性等を参考にして、自分としての解決方法を問う意思決定する取組をさせていく。児童会・生徒会活動は原則合意形成である。学校行事については合意形成と意思決定が混在している。さらに人間関係形成のための取組も必要としている。

② 学級活動(1)の充実を目指して

中学校学習指導要領解説特別活動編のP.70には、次のように書かれている。

中学校においては、話し合い活動における学校間、教師間の取組に差が見られ、話し合い活動に対する十分な理解の下に実践が行われてきたとは言えない状況が見られる。また、中学生の発達段階として、個人差はあるものの、自己開示に慎重になったり、相手の発言に対して意見を言うことを躊躇(ためら)ったりしがちな面も見られ、また、これからの時代を生きる力として、個々の生徒に社会参画に対する意識の高揚を図り、合意形成に関わる自治的な能力を育むことが、これまで以上に求められる。

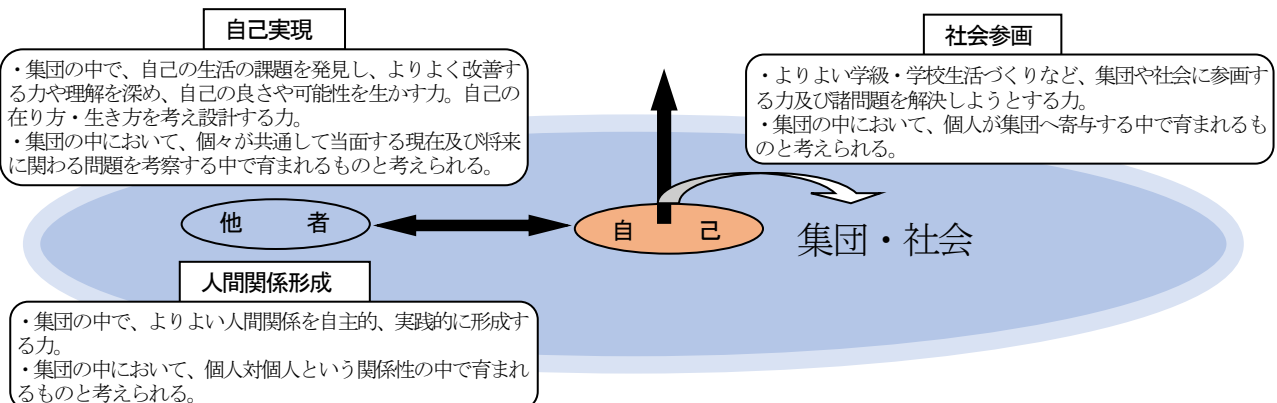
学級活動の充実を図るために、17個あった学級活動の内容項目を11個にまとめ、整理された。小学校のときの学びを生かしながら、これまで以上に学級活動の(1)の充実を目指したい。

③ 早期離職率から「合意形成の必要性」を考える

早期離職率の調査(三重県商工会議所連合会の調査)における、経営者の考える離職理由は、1位「転職願望」、2位「仕事内容への不満」、3位「人間関係への不満」となっている。本人が考える離職理由は、1位「仕事が向いていない」、2位「職場内の人間関係」である。発達段階に応じて、幼稚園から小学校・中学校・高校と、人間関係を形成したり修正したりする力を身に付ける必要がある。学級活動の(1)の話し合いで、子供たちが合意形成をしたり人間関係を築いたりしていくことが大切となる。

(2) 特別活動固有の視点について

今回の学習指導要領は、固有の視点を「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」でまとめられている。



① 誰にでも起こりうる深刻ないじめと「人間関係形成」

「仲間はずれ、無視、陰口の経験率」を見ると、中学1年生の6月から3年生の11月まで、いじめの総数はほぼ変わらないが、ずっといじめが続いているのは、わずか0.14%となっている。つまり、全くいじめを経験しなかった子は、3割程度と少数であり、7割は、何らかの形でいじめを受けている。深刻ないじめは、誰にでも起こりうるということになる。

(国立教育政策研究所「生徒指導リーフ：2010年中学1年生の学年進行に伴う被害経験者の推移」より)

② いじめの3大要素を取り除く、「絆(きずな)づくり」と「居場所づくり」の主語は

○ いじめの3大要素とは

- ・ 競争的な価値観への偏重
- ・ 友人ストレス
- ・ 不機嫌怒りストレス

○ いじめの三大要素を取り除くカギとは

- ・ 絆づくりの主語は、児童生徒
- ・ 居場所づくりの主語は、教職員



子供がつくる「絆づくり」のカギは「自治的な活動」にある

③ 教師と生徒とのずれをなくす

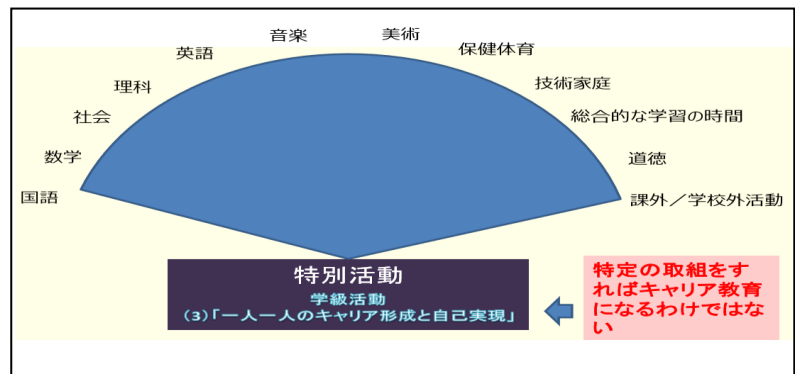
「学級でよりよい絆づくりができていないか」という問いに、教師の94%が「できていない」と答えた。「よい人間関係を築けているか」という問いに、生徒は78%以上が「できていない」と答えた。この差を、誤差とみるか、教師の思いが生徒たちに届いていないとみるか。「絆づくり」の主語を、考えた取組を進めたい。(平成25年度学習指導要領実施状況調査より)

(3) 特別活動を要としたキャリア教育の充実について

① なぜ特別活動がキャリア教育の要なのか

【28年中教審答申】

実生活の課題を解決するために、互いのよさや可能性を發揮できるような様々な集団活動を通して、各教科等における学びを実際の場面で総合的に活用して実践する時間であるとともに、特別活動の学びが各教科等の学習を行う上での土台となるといった各教科等と往還的な関係にあると言うことができる。



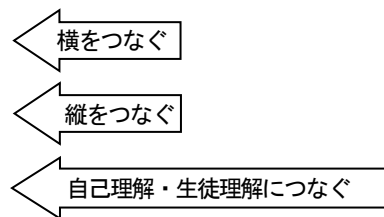
【中学校学習指導要領「特別活動」】

【学級活動】 3内容の取扱い (2) 2の(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。

② キャリアパスポートを活用した活動の意義

【中学校学習指導要領解説「特別活動」】

- 一つ目は、中学校の教育活動全体で行うキャリア教育の要としての特別活動の意義が明確になることである。
- 二つ目は、小学校から中学校、高等学校へと系統的なキャリア教育を進めることに資するということである。
- 三つ目は、生徒にとっては自己理解を深めるためのものとなり、教師にとっては生徒理解を深めるためのものとなることである。



※ここにキャリアパスポートの意義がある

中学校では小学校の学びを考えず、0からスタートしていないか。子供の学びはつながっている。6年生のときに抱いた不安が、不登校に直結していないか。小学校の不安と、中学校からの新規不登校は相関がある。では、キャリアパスポートで何をつなぐのか。児童生徒理解をつなぐ。